

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社旗福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町長529番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間の自然あふれる中、木造平屋建の環境に優しい「地中の熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには栗園があり、小鳥のさえずりも聞かれ、自然を満喫する事が出来る環境である。また、地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者のご家族様とも信頼関係も深まり、ご利用者様と一緒に楽しめるような企画を実施している。また、ご利用者様が自然の環境の中で、ゆったりと楽しく暮らして頂ける様な雰囲気作りを心がけて、支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年11月19日

法人の広大な敷地に建つホームでは、里山の自然環境や食の恵み、心温かな地域性を運営に活かしながら、入居者と職員が寄り添い生活している。地域交流の柱として継続している地区のサロンをホームでも開催し、馴染みとなった人々とミニ運動会で体を動かし、地域恒例の秋祭りには手作り菓子を出品して毎回好評を得ている。独居者や高齢者世帯に、美味しい食事を届けたいとして始まった法人の宅食サービスや、災害時の福祉避難所としての地域協定など地域貢献を手本として、ホーム独自で夏場の美化作業に参加し、同業者と中学校へ外向き絵本教室を開くなど、徐々に活躍の場が広がってきている。地域の中で支え、支えられる関係がしっかりと根付いてきており今後の展開が大いに期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は母体の理念と明日葉の理念を明日葉おおホール内に掲示している。また、明日葉の理念は、開設当時よりスタッフのロッカーに貼り、この理念に基づき、理念に添った支援を行っている。	「地域の中で共に輝いて暮らしたい」とする理念は、入居者が地域の一員として誇りを持って暮らすためのツールとして、職員の中にしっかりと定着している。日々のケアや月の会議で振り返り、入居者の希望する生活となっているかを評価している。馴染みの地域行事を継続し、人々にホームの取り組みを発信しながら地域の理解や協力を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域のサロンに参加している。二ヶ月に1回は地域の方が明日葉に来訪され地域交流会を行っている。地区の美化作業にも参加(毎月1回・朝6時～8時)、地域の収穫祭にも、明日葉手づくりの菓子をバザーとして出品し、販売したお金を地域に活用して頂くように寄付している。	集落と距離を置く場所にあってもその関りは深く、地域密着型事業所として、開所時からの基本姿勢を貫いている。職員の美化作業への参加により、地域の人々と顔なじみの関係を作り、地域のサロンに参加しながら、毎月交互に会場を移し、地域高齢者に足を運んでもらい相互交流を継続している。秋の収穫祭には入居者の席が設けられ、農産物の販売会が懐かしい「せり市」形式で行われるなど、入居者にも馴染みの光景となっている。ホームの手作り菓子も毎年好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の方の行動やその支援について説明をしている。また、地域の中学校に出かけて認知症の症状や、対応の仕方等について話を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて意見や助言を頂いたら、スタッフに報告し利用者が過ごし易い環境に繋げている。(ホールに畳がなかったので、座ったり横になられて良いように即、簡易畳を設置した。)	定期的開催される会議は、地域代表者や行政・家族代表などの参加により入居者の声を聞きながらホーム内で開催されている。家族からリビングに畳スペースを設けて欲しいとの要望に応え、新たに畳コーナーを設け、入居者の寛ぎの場として活用されている。また、温泉入浴を体験させて欲しいとの家族の希望には現在検討を重ねている。会議の内容は家族会の中で報告を行い共有に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の意見や悩み等を相談したり、ケアプランを提出し助言を頂いている。(介護支援専門員も参加)	市主催の説明会で、個々のケアプランについても推進会議の中で検討するよう指導を受けたり、運営やケア、職員配置などに関する「事業所自己評価シート」の提出に協力している。管理者は運営上の疑問や相談事に乗ってもらいながら、友好的関係を築き、書類提出などで行政を訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度は施設外研修に参加の機会がなかったが、内部研修に参加し、「絶対に拘束をしない、行わないケア」に取り組んでいる。特に言葉による抑制にはスタッフ全員で日々注意を払っている。	職員は身体拘束の内部研修で認識を新たにしている。業務が忙しくなるにつれ、知らず知らずのうちに声のトーンが大きくなるといった点について、互いが感じたことを出し合い「他に方法はなかったのか？」など話し合いの場を持つようになっている。管理者は入居者の不安定な状態をいち早く察知することで自然に散歩に誘ったり、ウッドデッキを活用し、ゆっくり話を聞くなど、先を見据えながら一人ひとりに寄り添うケアを心がけるよう指導している。	親しい関係であるからこそ職員は一人ひとりへの対応について、特に言葉については、スピーチロックに繋がらないよう、ホーム内で話し合う機会を重視しており、今後も継続した取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスにより、虐待が起きないように日々スタッフの健康状態や精神面に悩みが無いスタッフの心のケアに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に後見人制度を受けて居られるかたが1名。今年度は研修に参加したが復命のみで、スタッフへの研修が出来なかった。本年度は、全員の勉強会を実施予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明事項及び契約書について説明を行ない、質問を受けているが説明後にも再度、疑問がないか時間を取り聞いている。納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、7月に家族とスタッフの意見交換会を行い、日頃のケアの在り方等を説明している。その後、担当者と個別に意見交換会を行い意見を聞いた。特に意見は聞かれなかったが、「楽しみを増やして欲しい」と要望があり、今後の支援計画を見直す良い機会となった。	七月の家族会の席や年末の行事の機会を利用し、家族が日頃感じている事や要望など、忌憚のない意見を出してもらおうよう働きかけている。普段の面会時には入居者の生活ぶりをじっくり見てもらいながら、思いを聞き取り、ホーム運営に反映させている。入居者の意見は日々の関わりの中から発された言葉を職員が持ち寄り、希望には出来る限り早い段階で応じるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全スタッフの会議で意見や提案を聞いているが、緊急な場合はミニ会議を行い、申し送り簿により全スタッフに報告し、実践に生かしている。	職員は毎月の定例会議で入居者の現状を共有し、今後の支援のあり方を検討したり、外出の希望に個別ケアを取り入れるなど、ケアカンファレンスを中心に話し合っている。職員の日々の気づきや提案を入居者のケアや業務改善に反映させ、年二回の個人面談で更に意見や意欲を引き出し、福利厚生の実にも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年2回(上期・下期)に個別面接を行い、本人の意欲(目標)が達成感等を聞いたり、助言を行っている。また、本年度は休暇が取れるように就業時間や業務の見直しを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の内部研修には毎月参加している。外部研修では特にレクレーションに参加して、利用者の機能維持に特に活用している。スタッフも利用者の笑顔に生きがいを感じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・山鹿広域の交流会に参加したが、スタッフの参加があまり出来なかった。(スタッフ1名・長期療養中)		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新規利用者が居られなかった。新規利用者を受け入れる場合は、利用されていたサービス事業所より情報を得たり、家族と面談して出来る限り情報を得るようにしている。入所時より不安なく生活が出来る様にケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っている事や不安に思っておられる事を聞いて、出来る限り解消が出来る様に支援の提案を行い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で、本人及び家族が一番必要としている事をスタッフの共通支援とし、「その時」の利用者の思いをしっかりと受け止めて支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や機能に応じて、掃除や洗濯干し・洗濯たみや料理の下ごしらえ等、出来ることをしてもらう事により、共同生活の一員としての支えあう関係作りを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の休日を利用して、地域外出や帰省に協力して頂き、出来るだけ家族との絆が深まるように支援を行っている。また、全員での外出の時は、家族へも声かけして協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンに定期的に参加している為に、馴染みの関係が深まってきた。また、自分の馴染みの地域に出かける事により、喜びが見え来た。	本年度は入居者の希望を取り入れながら、法人で歌を楽しんだり、地域の神社や商店などへ個別に出かける機会が増えている。入居者は外出や地域行事に参加して、馴染みの場所や人々と再会し、新たに取り入れた訪問理容で、ホームにゆかりのある理容師によるカットの支援が行われている。農業を経験された入居者が多く、菜園への足場が悪い事からプランターでも野菜作りを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意気投合も見られる反面、男性1名の為に時折、トラブルが起こる時もある。その為に、個別ケアを重視して、母体に遊びに行ったり、散策やその人の行きたい所に出かけたり、全員で楽しめるゲームを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されても家族と連絡を取り、利用者の面会を行っている。また、家族より相談があれば、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の思いや希望を聞き、出来るだけ思いに添った支援を行っている。(個別ケア)しかし、理解が著しく低下されている利用者の思いを聞く事が困難な場合は、その方の立場に立った支援に心がけている。	入居者の言葉から外出の機会が広がっており、職員は普段から入居者の話に耳を傾け、言葉の背景を推し量りながら、思いに応えるよう努力している。意思表示の困難な入居者へは、関わりの中から表情や仕草から思いを汲み取り、本人の意向に近づくよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族より聞いたり、担当ケアマネ及び地域の方に聞いて、情報収集を行っているものの、個人情報になる為に、以前より情報を得ることが難しくなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者の暮らしが安定しており、スタッフも心身状態等の把握が出来る為に本人の有する機能に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当者がおり、アセスメントを実施している。また、毎月のカンファレンスを行っている。また、更新時においては、家族及び担当スタッフとモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合は支援経過の見直しを行っている。	入居者の意向をもとに、家族の思いや職員の気づきをプランに繋いでいる。計画作成者は担当者会議で、家族に小さなことでも遠慮なく話してもらおうよう雰囲気作りも大切にしている。プランの中に菜園を耕す家族を嬉しそうに見守る入居者の姿を盛り込むなど、その継続を願い、随時に評価しながら見直した内容をプラン上で修正し、日々のケアに連動させながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎時、ケア記録に生活の様子を記録している。また、特に申し送りのある場合には、日勤者⇄夜勤者の申し送り簿により、情報交換を行っている。また、職員間の申し送り簿により、更に利用者の支援や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	県外より帰省された場合は、家族には寝具・簡易ベッドを用意している。また、家族の要望等で施設で出来る範囲内であれば柔軟な対応ができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや認知症サポーターの協力を得て地域に出掛けて、自然を満喫している。地域の人と声掛け合うことで、暮らしの豊かさに繋がる様な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を重視し、家族の協力を得ながら受診を行っている。また、家族が遠方の場合はスタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。また、受診が困難な場合は、往診を依頼して健康管理に努めている。	これまでのかかりつけ医を支援し、家族の協力による受診や協力医による往診が行われている。家族が同行する場合は、情報を提供しスムーズな受診をサポートしている。職員は昼・夜の健康状態の観察に努め、顔のむくみなど気になる点は写真に撮って、医師に報告し異常の早期発見に努めている。医師である法人代表者も機会あるごとにホームを訪れ、入居者と会話をしながら健康状態を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表(日計)及び検温板(月計)により、状態の変化が見えるようにしている。異常が見られる場合は隣接の母体看護師に相談を行い、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設より搬送し、本人及び家族が安心されるように情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安を出来るだけ最小限になるよう心がけている。また、医療機より情報を得て、家族とも相談を行ってお互いの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対してのスタッフの配置が行えていない為に、加齢の場合のみ受け入れが可能であるものの、医療を必要とする場合は困難な為に、本人の意思や、家族の考えを十分に検討し支援を実施している。	現況では職員配置などの点からも、医療行為の必要がない終末期対応までを可能としているが、その都度家族と話し合い方向性を決定していくこととしている。縁あってホームに入居されている方々にとって、最良の日々を支援していきたいと管理者は語っている。	今後は重度化・終末期支援の有無に限らず、人生の最後を支援する思いを共有しながら職員のメンタルも含めたホーム単独の研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設の研修会に参加しているものの、定期的な訓練の実施が行えていない。緊急の場合は母体看護師の協力を得ることが出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を地域住民の参加を得て年2回実施していたが、本年度は春の実施が出来ておらず、11月に昼間想定の実践を実施予定。また、山鹿市の災害対策避難訓練にも参加予定である。	今年度は一回目の訓練を12月に昼間想定で予定し、11月には市の福祉避難訓練に参加して地域との防災意識を高める機会となっている。職員は日ごろから防災意識を持ち、台所などの安全確認や備蓄として米・インスタント食品などを準備している。	近隣に民家がないことから有事の際の地域の協力で時間を要することから、今後もまずは火を出さないための取り組みや、母体施設との連携強化に期待したい。また、居室は掃き出し窓となっており、安全な避難誘導が行えるようスロープの準備が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で、個人個人のプライバシーを尊重する言葉掛けを行っているが、耳の遠い利用者に少し声かけの言葉が大きくなったりしていることがあるので、スタッフ同士で注意しあっている。一人ひとりをしっかり尊重出来る様に心がけている。	一人ひとりを尊重した対応を心がけ、呼称は苗字やこれまで呼ばれてきた馴染みのある下の名前で対応している。接遇や個人情報・守秘義務の徹底について、年度初めに法人内研修で指導が行われ、代表者もホームを訪れた際、職員の声のトーンなど気になる点があれば伝えている。また、職員間でも気づきを述べ合い、入居者に親しい中にも節度ある対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定が出来易いようにわかり易く説明しているが、理解力の低下が著しい利用者に対しても思いが出やすいように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、朝食後、本人に何をしたいか聞いている。出来るだけ、その人の希望に添えるように支援している。(例:お天気が良ければ散策等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面を行い、一緒に身だしなみを行っている。外出や行事の時はお化粧品や洋服もおしゃれして頂いている。普段と違う為に喜びの笑顔が見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の料理に取り入れている。また、野菜の皮むきが出来ることがあるが、身体面や精神面の低下があり、以前のように片付け等は難しくなって来た。	入居者の好み、季節感を取り入れながら、冷蔵庫の食材を確認しその日のメニューを決定している。法人の栄養士による指導やアドバイスも受けており、入居者に応じた食携帯で提供されている。調理を一緒に行うことは困難になってきているが、食材の買出し・里芋の皮むき・切干大根作り、グリンピースのさや出しなどが、できる食への関わりを支援している。家族が協力する菜園野菜を使い、盛りつけにも工夫された食事を地元産の美味しいお茶と一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については献立のバランスを考えながら利用者の希望を多く取り入れている。カロリー計算は年1回、母体の栄養管理士にお願いして振り返っている。また、嚥下障害の人にあった形態にも心掛けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を実施し食事がスムーズに摂れるように行っている。また、食後に口腔ケアの中で、異常発見に努めている。また、異常があれば家族に相談して、受診もしくは往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立に向けて、出来るだけ本人の機能を引き出すような声掛けを行っている。(排泄用パットも個々に合った物を準備している)	日中は布下着やそれぞれに応じた排泄用品の組み合わせにより全員トイレでの支援に努めている。夜間のみオムツを使用される方や、車椅子でも昼間同様トイレで排泄される方など、個々の機能を継続できるよう、職員は共有を図っている。清潔に管理されたトイレには、ホームに咲いている花が飾られ落ち着いた空間が演出されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維(さつま芋・牛蒡・麦等)を多く取り入れて、便秘予防に心がけている。また、乳製品や果物の提供も多い。運動として、散歩も行っている)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後に実施。本人の希望があれば毎日でも入浴可能。(健康状態を見ながら)また、1対1の入浴でゆっくりとした入浴を実施している。夏場は水虫対策として、毎日足浴を実施している。(5月:菖蒲湯 12月:ゆず湯)	基本的に午後からの入浴を支援しているが、健康状態に配慮しながら毎日の入浴にも対応している。脱衣所や浴室内の整頓を心がけ、1対1でゆっくりと寛げる支援に努めている。拒否の方へは「毛穴をきれいにしましょう～！」など、声かけを工夫し誘導を行っている。夏場の足浴や季節の菖蒲・ゆず湯も取り入れ、ゆずは調理やリビング内に飾るなど入居者の関心を高め入浴に繋げている。	家族から温泉入浴の要望が出されており、先ずは“足湯支援”から取り入れて行くのも一案かと思われる。実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	建物全体が「地中の熱」を利用しており、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が休みたい時は何時でも休む事が出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報及び内容については全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合でも、個々の体温板や、申し送り簿に記載し、間違いが起らないように支援している。また、臨時薬を投与した後は、病状の変化等にもスタッフ全員が確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に生かせるように支援している。現在は、テーブル拭きや洗濯物(干し・取り入れ・たたみ・収納)、掃除等にお手伝いされている。また、朝食前には神様へお参りするのを日課にされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何時でも本人の希望に添えるようにしているが、日々の外出は短時間(買い物等)が主である。また、行事による外出は家族・ボランティアの協力を得て外出している。	山々に囲まれたホームは、季節の移り変わりを目の当たりにし、気候の良い時期は敷地内を散歩したり、ベランダでのお茶や洗濯干しなどを日常的に支援している。また、あらたまった外出だけではなく、母体施設に行きカラオケを楽しめる方や買い物・地元の神社・公園、菊人形見物など入居者の体調や天候に応じ個別での外出支援が実施されている。収穫祭への参加など地域の方々の支援や、この秋は家族も参加しみかん刈りに出かけている。ホームだよりには農園を紹介し「面会時に散歩されるのも・・・」と記され、家族と一緒に時間を大切にして欲しいホームの思いが伝わってくる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	数名、小遣い程度で預かっている。買い物や活動で出かけた際に、本人と一緒に支払いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及びお知らせを書いて送付している。また、利用者が書かれた物をお手紙の時に同封したりしている。電話は希望時に取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間にお花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に心がけている。また、静かなオルゴール曲をかけたり、録画による「こころの歌」を聴いて頂くことにより、心豊かに過ごして頂く工夫をしている。	季節を大切にしているホームは、花や植物、外出時の写真もタイムリーなプリントの後掲示され、入居者や来訪者の楽しみになっている。法人職員の協力によりホール縁側に完成したベランダは、お茶や会話、・外気浴・干し柿作りなど、楽しみや活気ある入居者の日々に繋がっている。地中熱を利用した自然な空調設備の建物内は、専任の掃除スタッフを中心に細部まで掃除が行き届き、心地よく過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下(2ヶ所)、ベランダ等に椅子を設置して、何時でも過ごし易い空間を心がけている。その時にはさりげなく声掛けしたりして寄り添い本人の気持ちを聞いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には自分の馴染みの家具を置いたり、ご家族の写真を飾ったりし、好きなお花を置くことにより、居心地良く過ごせるように心がけている。特にお花の好きな方には、自宅の花を生けることにより、我が家に居るような気分になれるような工夫をしている。	ダンスや鏡台をはじめ化粧品など馴染みの品々が持ち込まれた各部屋は、きちんと整理されている。排泄用品が入った収納箱にはクロスをかけるなどプライバシーにも配慮している。家族の来訪の機会にも繋がるよう衣替えの依頼をホーム便りにも記し、衣類の入れ替えや自宅の庭の花を飾るなど家族と一緒に入居者が安心して過ごせる空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札やお風呂・トイレなどに表札を掛けて解かり易い言葉で表示している。また、廊下やホールには危険になる様な備品は置かないようにして、リスクの回避を図っている。		